

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

兵医法第 51号
令和 5年 10月 5日
開設者名

学校法人 兵庫医科大学
理事長 太城 力良

兵庫医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
氏名	学校法人 兵庫医科大学 理事長 太城 力良

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

兵庫医科大学病院

3 所在の場所

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
電話 (0798) 45 - 6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
・内分泌内科、代謝内科の診療内容は「内分泌・代謝内科」で提供。 ・腎臓内科の診療内容は、「腎臓・人工透析内科」で提供。 ・感染症内科の診療内容は、主として総合内科および感染制御部で提供 ・神経内科の診療内容は「脳神経内科」にて提供。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科		有	
外科と組み合わせた診療科名			
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科
			3乳腺外科
			7内分泌外科
		○	4心臓外科
			8小児外科
診療実績			
・乳腺外科、内分泌外科の診療内容は「乳腺・内分泌外科」で提供。			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科		有	
歯科と組み合わせた診療科名			
	1小児歯科		2矯正歯科
			3歯科口腔外科
歯科の診療体制			

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	臨床検査科	3	病理診断科	4	糖尿病内科	5	肝臓・胆のう・膵臓内科
6	腫瘍内科	7	形成外科	8	美容外科	9	頭頸部外科	10	ペインクリニック・疼痛緩和外科
11	内分泌・代謝内科	12	脳神経内科	13	腎臓・人工透析内科	14	乳腺・内分泌外科	15	歯科口腔外科
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
44	0	0	0	919	963	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	526	67	533.4
歯科医師	22	3	22.7
薬剤師	80	0	80
保健師	0	0	0
助産師	40	0	40
看護師	990	37	1013.8
准看護師	0	3	1.14
歯科衛生士	6	0	0
管理栄養士	9	0	0

職種	員数
看護補助者	165
理学療法士	36
作業療法士	14
視能訓練士	13
義肢装具士	0
臨床工学士	29
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	53

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	99
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	11	
その他の技術員	23	
事務職員	268	
その他の職員	17	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	68	眼科専門医	15
外科専門医	58	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	11	放射線科専門医	7
小児科専門医	21	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	23
産婦人科専門医	16	救急科専門医	9
		合計	288

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (阪上 雅史) 任命年月日 令和 元 年 4 月 1 日

医療安全管理部長、医療安全管理委員会委員長 2012.4-2017.3
 医療安全管理責任者 2016.10-2017.3

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

1042.4

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	742.9 人	9.5 人	752.4 人
1日当たり平均外来患者数	2274.4 人	87.6 人	2362 人
1日当たり平均調剤数		1205.5	剤
必要医師数		206	人
必要歯科医師数		5	人
必要薬剤師数		25	人
必要(准)看護師数		455	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	20 床	心電計	有
集中治療室	450.4 m ²	鉄筋コンクリート(RC)	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	339.44	m ²	病床数	22 床
	[移動式の場合]	台数	11	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	41.95		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	159.5 m ²	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	生化学・免疫統合型分析装置cobas8000<c702>, cobas8000<e801> 免疫分析ARCHITECTi1000SR,全自動糖分析装置GA09, 東ソー自動グリコヘモグロビン分析計HLC-723G11		
細菌検査室	145.9 m ²	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	Auto-Scan W/A、バクテアラート3D、MGIT、Taqman		
病理検査室	208.9 m ²	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	クリオスタット、連続迅速自動固定包埋装置		
病理解剖室	110.7 m ²	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	解剖台、サクラリサイクラー、エコプロセス		
研究室	17125 m ²	鉄骨造(S)	(主な設備)	CO2インキュベーター、オートクレーブ、オールインワン蛍光顕微鏡、リアルタイムPCRシステム		
講義室	2006.6 m ²	鉄筋コンクリート(RC) 鉄骨造(S)	室数	15 室	収容定員	1481 人
図書室	1128 m ²	鉄筋コンクリート(RC)	室数	1 室	蔵書数	67550 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	92.4	%	逆紹介率	66.8	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		25776 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19787 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1586 人		
	D: 初診の患者の数		29609 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
宮崎 浩彰	関西医科大学医療安全管理センター副センター長 (兼任)消化器肝臓内科/ 理事長特命教授(医師)	○	医療に係る安全管理に 関する見解を有する者	無	1
亀井 尚也	かけはし法律事務所 (弁護士)		法律に関する見解を有 する者	無	1
辰馬 勝	学校法人関西学院評議員 関西学院同窓会副会長		医療を受ける者の立場 から意見を述べること ができる者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
兵庫医科大学病院ホームページにて掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	肝以外の腫瘍に対するラジオ波凝固治療	取扱患者数	108
当該医療技術の概要 肺、腎臓、副腎、骨・軟部腫瘍の外科的切除が困難な患者に対して、局所麻酔下で経皮的に施行可能なラジオ波凝固治療を施行し、より低侵襲な治療を提供している。			
医療技術名	骨軟部腫瘍に対する経皮的凍結治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 他の治療法が有効でなかった骨軟部腫瘍の患者に対し経皮的凍結治療を施行する。治療領域が確認できることで、神経損傷を回避しやすくなり、手技中の疼痛も少ないという利点がある。さらに、良好な除痛効果や腫瘍縮小効果が期待できる治療法である。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 カテーテルを用いて大動脈弁を人工弁に置き換える治療法。従来の開胸大動脈弁置換術よりも低侵襲であり、手術が困難と判断された高齢者でも可能な大動脈弁狭窄症の治療法である。			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 体への負担が少なく、より正確で安全性の高い操作が可能な手術支援ロボットによる低侵襲な胃癌の手術。			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除・切断術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	44
当該医療技術の概要 手術支援ロボットにより、従来の腹腔鏡よりも緻密な手術が可能になり、機能温存が重要な直腸がんの手術に有用な治療法である。			
医療技術名	アミロイドPET	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 アルツハイマー型認知症のリスクを評価する最先端の検査です。アルツハイマー病の原因である脳のアミロイドβに集積する物質を注射し、脳内にどのくらい蓄積するかを調べます。			
医療技術名	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 縦隔腫瘍に対して手術支援ロボットにより低侵襲かつ安全にアプローチ可能となる治療法である。			
医療技術名	胸腔鏡下良性・悪性縦隔腫瘍手術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 縦隔腫瘍に対して手術支援ロボットにより低侵襲かつ安全にアプローチ可能となる治療法である。			
医療技術名	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 重症筋無力症の治療において手術支援ロボットを使用することで低侵襲で安全に施工可能な治療法である。			
医療技術名	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 咽頭がんや喉頭がんの治療において手術支援ロボットを使用することで低侵襲で安全に施工可能な治療法である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	10
取扱い患者数の合計(人)	289

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	36
2	筋萎縮性側索硬化症	21	57	特発性拡張型心筋症	12
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	11
4	原発性側索硬化症	3	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	5	60	再生不良性貧血	31
6	パーキンソン病	167	61	自己免疫性溶血性貧血	14
7	大脳皮質基底核変性症	0	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	7
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	1
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	6	65	原発性免疫不全症候群	7
11	重症筋無力症	76	66	IgA 腎症	27
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	18	68	黄色靱帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	32	69	後縦靱帯骨化症	28
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	9
17	多系統萎縮症	15	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	0
21	ミトコンドリア病	1	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	29	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	8	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	29
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	39
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	7
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュフルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	9	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	9	90	網膜色素変性症	26
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	6	93	原発性胆汁性胆管炎	18
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	8	95	自己免疫性肝炎	23
41	巨細胞性動脈炎	11	96	クローン病	330
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	465
43	顕微鏡的多発血管炎	0	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	23	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	18	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	1	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	112	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	59	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	28	106	クリオピリン関連周期性熱症候群	0
52	混合性結合組織病	4	107	若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	121	108	TNF受容体関連周期性熱症候群	0
54	成人ステル病	9	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

	疾患名			疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	10	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	2
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	4
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳	0	173	VATER症候群	0
124	皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性	0	175	ウィーバー症候群	0
126	白質脳症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	ベリー症候群	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	前頭側頭葉変性症	3	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	痙攣重積型(二相性)急性脳症	3	180	ATR-X症候群	1
131	先天性無痛無汗症	0	181	クルーゾン症候群	0
132	アレキサンダー病	0	182	アペール症候群	0
133	先天性核上性球麻痺	0	183	ファイファー症候群	0
134	メビウス症候群	2	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	1
136	アイカルディ症候群	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	片側巨脳症	0	187	歌舞伎症候群	0
138	限局性皮質異形成	0	188	多脾症候群	0
139	神経細胞移動異常症	0	189	無脾症候群	0
140	先天性大脳白質形成不全症	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	ドラベ症候群	0	191	ウェルナー症候群	0
142	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー欠伸てんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	194	ソトス症候群	0
145	レノックス・ガストー症候群	2	195	ヌーナン症候群	1
146	ウエスト症候群	3	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	大田原症候群	0	197	1p36欠失症候群	0
148	早期ミオクロニー脳症	0	198	4p欠失症候群	0
149	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	199	5p欠失症候群	1
150	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	環状20番染色体症候群	0	201	アンジェルマン症候群	1
152	ラスムッセン脳炎	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	PCDH19関連症候群	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	204	エマヌエル症候群	0
155	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	ランドウ・クレフナー症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	レット症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	スタージ・ウェーバー症候群	0	208	修正大血管転位症	0
159	結節性硬化症	1	209	完全大血管転位症	0
160	色素性乾皮症	0	210	単心室症	0
160	先天性魚鱗癬	3			

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	9
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候	6
222	一次性ネフローゼ症候群	3	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	0
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	3
227	オスラー病	5	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシユスブルング病(全結腸型又は小腸型)	2
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	2
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	19
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	2
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	75

疾 患 名		患者数	疾 患 名		患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	1	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	0
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	114
合計患者数(人)	2,192

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等
(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	ハイリスク分娩管理加算
歯科外来診療環境体制加算2	呼吸ケアチーム加算
歯科診療特別対応連携加算	術後疼痛管理チーム加算
特定機能病院入院基本料	後発医薬品使用体制加算2
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算2
診療録管理体制加算1	データ提出加算2
医師事務作業補助体制加算1 20対1	入退院支援加算2
急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者5割以上)	入退院支援加算3
(夜間100対1急性期看護補助体制加算)	(入院時支援加算)
(夜間看護体制加算)	(地域連携診療計画加算)
看護職員夜間配置加算1(12対1)1	認知症ケア加算1
看護補助加算2(50対1)	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算1	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算2	排尿自立支援加算
緩和ケア診療加算	地域医療体制確保加算
精神病棟入院時医学管理加算	救命救急入院料1
精神科身体合併症管理加算	救命救急入院料4(20床→18床へ)
精神科リエゾンチーム加算	救命救急入院料の注1に掲げる算定上限日数基準
摂食障害入院医療管理加算	救命救急入院料の注2に掲げる精神疾患診断治療初回加算
栄養サポートチーム加算	救命救急入院料の注8に掲げる早期離床・リハビリテーション加算
医療安全対策加算1	救命救急入院料「4」の注9に掲げる早期栄養介入管理加算
感染対策向上加算1、指導強化加算	特定集中治療室管理料1
患者サポート体制充実加算	特定集中治療室管理料の注1に掲げる算定上限日数基準
報告書管理体制加算	特定集中治療室管理料1の注4に掲げる早期離床・リハビリテーション加算
ハイリスク妊娠管理加算	ハイケアユニット入院医療管理料2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等
(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料 注2に規定する加算	ハイリスク妊産婦連携指導料2
遠隔モニタリング加算(心臓ペースメーカー指導管理料)	こころの連携指導料Ⅱ
糖尿病合併症管理料	がん治療連携計画策定料
がん性疼痛緩和指導管理料	肝炎インターフェロン治療計画料
がん患者指導管理料イ	外来排尿自立指導料
がん患者指導管理料ロ	薬剤管理指導料
がん患者指導管理料ハ	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
がん患者指導管理料ニ	医療機器安全管理料1
外来緩和ケア管理料	医療機器安全管理料2
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	精神科退院時共同指導料2
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	遠隔モニタリング加算(在宅酸素療法指導管理料に対する)
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料に対する)
糖尿病透析予防指導管理料	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
外来放射線照射診療料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
婦人科特定疾患治療管理料	遺伝学的検査
腎代替療法指導管理料	染色体検査の注2に掲げる絨毛染色体検査
一般不妊治療管理料	骨髄微小残存病変量測定
生殖補助医療管理料1	BRCA1/2遺伝子検査
二次性骨折予防継続管理料1	がんゲノムプロファイリング検査
二次性骨折予防継続管理料3	角膜ジストロフィー遺伝子検査
下肢創傷処置管理料	先天性代謝異常症検査
外来腫瘍化学療法診療料1、連携充実加算	咀嚼能力検査
療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談支援加算	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
開放型病院共同指導料	検体検査管理加算(Ⅳ)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	国際標準検査管理加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等
(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
遺伝カウンセリング加算	全身MRI撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	血流予備量比コンピューター断層撮影
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
胎児心エコー法	連携充実加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	外来化学療法加算1
ヘッドアップティルト試験	無菌製剤処理料
長期継続頭蓋内脳波検査	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
脳波検査判断料1	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
黄斑局所網膜電図	がん患者リハビリテーション料
全視野精密網膜電図	歯科口腔リハビリテーション料2
ロービジョン検査判断料	通院・在宅精神療法の注9に掲げる療養生活継続支援加算
コンタクトレンズ検査料1	精神科作業療法
小児食物アレルギー負荷検査	認知療法・認知行動療法1
内服・点滴誘発試験	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
経気管支凍結生検法	医療保護入院等診療料
画像診断管理加算3	口腔粘膜処置
ポジトロン断層撮影	レーザー機器加算
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
CT撮影及びMRI撮影	人工腎臓
冠動脈CT撮影加算	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
外傷全身CT加算	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
心臓MRI撮影加算	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
乳房MRI撮影加算	センチネルリンパ節加算
頭部MRI撮影加算	処理骨再建加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等
(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
椎間板内酵素注入療法	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
腫瘍脊椎骨全摘術	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡下脳腫瘍生検術	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
内視鏡下脳腫瘍摘出術	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
角結膜悪性腫瘍切除術	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
角膜移植術(内皮移植加算)	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
羊膜移植術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
緑内障手術(流出路再建術(眼内法))	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	食道縫合術(穿刺、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	胸腔鏡下弁形成術
網膜再建術	経カテーテル大動脈弁置換術
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術	胸腔鏡下弁置換術
耳管用補綴材挿入術	経皮的僧帽弁クリップ術
経外耳道の内視鏡下鼓室形成術	不整脈手術 左心耳閉鎖術 胸腔鏡下によるもの
人工中耳植込術	経皮的中隔心筋焼灼術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等
(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他)	腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
両室ペース機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペース機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の)	同種死体腎移植術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	生体腎移植術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	膀胱水圧拡張術
補助人工心臓	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下リンパ節郭清術(傍大動脈)	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	埋没陰茎手術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	精巣内精子採取術
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	腹腔鏡下仙骨腔固定術
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
腹腔鏡下肝切除術	乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌疾患症候群患者に限る。)
生体部分肝移植術	子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌疾患症候群患者に限る。)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	体外式膜型人工肺管理料
腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	輸血管管理料 I
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。)	コーディネート体制充実加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	自己生体組織接着剤作成術
内視鏡的小腸ポリープ切除術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	同種クリオプレシピテート作成術
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等
(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
手術時歯根面レーザー応用加算	悪性腫瘍病理組織標本加算
う蝕歯無痛の窩洞形成加算	口腔病理診断管理加算2
歯根端切除手術 注3	クラウン・ブリッジ維持管理料
手術用顕微鏡加算	CAD/CAM冠
血漿交換療法 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	CAD/CAMインレー
歯周組織再生誘導手術	有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の 歯科技工加算1及び2
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
顎関節人工関節全置換術(歯科)	
麻酔管理料(I)	
麻酔管理料(II)	
麻酔管理料の注に掲げる周術期薬剤管理加算	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	
1回線量増加加算	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療(IGRT)	
体外照射呼吸性移動対策加算	
定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
画像誘導密封小線源治療加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
病理診断管理加算2	
デジタル病理画像による病理診断	

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
重度の上肢麻痺に対するニューロフィードバックを併用した複合的CI療法の開発	道免 和久	リハビリテーション科	1,690,000	補 日本学術振興会
潜在的な薬剤性有害事象を自動的に検出する汎用性の高いアルゴリズムに関する研究	森本 剛	臨床研究支援センター	5,850,000	補 日本学術振興会
乳癌における脂質メディエーターを標的とする薬物送達システムを用いた新規治療の開発	永橋 昌幸	乳腺・内分泌外科	7,410,000	補 日本学術振興会
コンピュータビジョンを用いた外科医の意思決定支援システムの実用化に向けた開発研究	篠原 尚	上部消化管外科	6,370,000	補 日本学術振興会
早期中皮腫のゲノム異常と臨床病理学的特性の包括的理解:中皮腫発生と病態の解明	辻村 亨	病理診断科 (分子病理部門)	1,300,000	補 日本学術振興会
治療抵抗性大腸癌肝転移に対する肝動注塞栓療法	小笠原 篤	放射線医療センター	1,560,000	補 日本学術振興会
門脈大循環短絡を伴う胃静脈瘤に対する新たな塞栓治療法の確立:多施設共同臨床試験	小林 薫	放射線科	1,430,000	補 日本学術振興会
尿中スプライシング産物をバイオマーカーとした筋ジストロフィー治療評価系の検証	田中 靖彦	小児科	780,000	補 日本学術振興会
筋ジストロフィーにおける血管作動性因子のスプライシング動態の解明と治療応用	竹島 泰弘	小児科	1,170,000	補 日本学術振興会
肺癌治療において分子標的治療薬が惹起する薬剤性肺障害の発症機序の解明とその克服	南 俊行	呼吸器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
熱傷サルコペニア骨格筋のミトコンドリア及びマイトファジー障害への麻酔の影響と対策	植木 隆介	麻酔科・疼痛制御科	1,430,000	補 日本学術振興会
骨肉腫に対してmTOR阻害剤とバルブロン酸を併用する新たな治療戦略の確立	越谷 博之	整形外科	1,040,000	補 日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎の病態におけるメントールの役割に関する研究	都築 建三	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650,000	補 日本学術振興会
創傷治癒過程における皮膚創部の酸化ストレス耐性獲得機構の解明	河合 建一郎	形成外科	1,170,000	補 日本学術振興会
薬剤性有害事象及び薬剤関連エラーの発生予測モデルの作成とその検証	作間 未織	臨床研究支援センター	1,690,000	補 日本学術振興会
インフルエンザワクチンの細胞性免疫への影響の解明	大谷 成人	感染制御部	1,040,000	補 日本学術振興会
社会的機能尺度を用いた地域におけるひきこもり等困難者発見プロトコルの標準化	山田 恒	精神科神経科	1,690,000	補 日本学術振興会
細胞外アデニン濃度制御による革新的な固形癌治療法開発のための基礎的研究	小柴 賢洋	臨床検査科	1,040,000	補 日本学術振興会
過敏性腸症候群の身体・精神症状とグルテン感受性の関連及び新規治療手段の検討	前林 憲誠	精神科神経科	1,820,000	補 日本学術振興会
ナノ粒子型油性造影剤を用いたsiRNA送達システムの開発と肝動脈塞栓術への応用	谷口 純一	放射線科	1,430,000	補 日本学術振興会
エクソスキッピング誘導治療の有効性を予測する残存イントロン解析システムの検証	李 知子	小児科	1,040,000	補 日本学術振興会
超音波レオロジー理論を用いた脂肪性肝障害の病態解明と非侵襲的組織診断法の確立	飯島 尋子	肝・胆・膵内科	1,430,000	補 日本学術振興会
早期胃癌オルガノイドの樹立による腫瘍進展機構の解明	塩見 英之	肝・胆・膵内科	1,560,000	補 日本学術振興会
核酸医薬を応用した肝癌由来増殖因子を標的とする新たな肝細胞癌治療薬の開発	榎本 平之	肝・胆・膵内科	1,300,000	補 日本学術振興会
腸内細菌叢の攪乱と消化管微小炎症における Reg ファミリー蛋白の役割	福井 広一	消化管内科	910,000	補 日本学術振興会
心不全における心肺連関メカニズムの解明	朝倉 正紀	循環器内科	1,820,000	補 日本学術振興会
歯周病レッドコンプレックスとIgA腎症発症進展機序解明と新規治療法の開発	長澤 康行	総合内科	1,560,000	補 日本学術振興会
HLA半合致移植では、患者とドナーが共有しない方のHLA拘束性T細胞は存在するか	池亀 和博	血液内科	1,300,000	補 日本学術振興会
潰瘍性大腸炎の病態解明に向けた回腸囊炎の細菌叢解析	内野 基	炎症性腸疾患外科	1,300,000	補 日本学術振興会
網羅的ctDNA変異解析モニタリングによる腫瘍個別化集学的治療の開発	廣野 誠子	肝・胆・膵外科	1,430,000	補 日本学術振興会
ICG蛍光イメージングプロジェクションを用いた胃管血流デジタル評価システムの開発	倉橋 康典	上部消化管外科	910,000	補 日本学術振興会
重症尿路感染症の抗菌薬治療モニタリングにおける全自動尿中有形成分分析装置の有用性	山本 新吾	泌尿器科	1,080,000	補 日本学術振興会
生物活性脂質メディエーター レゾルビンE2/E3を介する新規抗腫瘍効果の解明	鏑本 浩志	産科婦人科	1,300,000	補 日本学術振興会
妊娠の成立と維持に関する免疫担当細胞の関与の解明と新規治療の開発	福井 淳史	産科婦人科	780,000	補 日本学術振興会
中高生ピロリ菌検診と除菌治療:全国調査による実施の現状と問題点の把握	奥田 真珠美	小児科	1,040,000	補 日本学術振興会
尿酸代謝と糖代謝異常および糖尿病血管合併症との関連	角田 拓	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,040,000	補 日本学術振興会
抗癌剤の用量探索試験のための統計的デザインの新たな展開とその応用	大門 貴志	臨床研究支援センター	1,170,000	補 日本学術振興会
呼吸動態の力学的な理解にもとづいた呼吸器疾患の新規診断法の開発	木島 貴志	呼吸器内科	520,000	補 日本学術振興会

悪性中皮腫の細胞特性に基づく新規治療戦略の確立	佐藤 鮎子	病理診断科 (分子病理部門)	1,690,000	補	日本学術振興会
トランスフェリン受容体1を介した血管病変形成機序の解明と治療法の開発	内藤 由朗	循環器内科	1,170,000	補	日本学術振興会
PETによる免疫チェックポイント阻害剤治療の効果判定と予測:多施設前向き臨床試験	北島 一宏	放射線医療センター	910,000	補	日本学術振興会
機能性消化管障害における粘膜バリアと小腸刷子細胞の機能解析と治療応用	大島 忠之	消化管内科	1,430,000	補	日本学術振興会
汎発性膿疱性乾癬続発性有棘細胞癌に共通な新規IL36RN遺伝子変異の役割の解明	金澤 伸雄	皮膚科	1,690,000	補	日本学術振興会
進行再発乳癌におけるエブリン治療効果予測バイオマーカー探索と新たな治療開発	三好 康雄	乳腺・内分泌外科	1,300,000	補	日本学術振興会
末梢血を用いた免疫チェックポイント阻害剤効果予測法の開発	中村 晃史	呼吸器外科	2,470,000	補	日本学術振興会
細胞間質ゲル構造に注目したヒドロキシエチルデンプンによる手術侵襲時の炎症制御	多田 羅 恒雄	手術センター	1,300,000	補	日本学術振興会
全身麻酔における侵襲受容モニターの開発とその有用性の検討	廣瀬 宗孝	麻酔科・疼痛制御科	1,170,000	補	日本学術振興会
ウイルス性敗血症を中心とした水素のNETs抑制効果検討	小濱 圭祐	救急科	1,560,000	補	日本学術振興会
ヒト臍帯由来血管血球系幹細胞を用いた脳梗塞後遺症に対する細胞治療研究	山原 研一	輸血・細胞治療センター	1,690,000	補	日本学術振興会
脳出血に対する臍帯由来間葉系幹細胞を用いた新規治療方法開発とその作用機序の解明	吉村 紳一	脳神経外科	1,820,000	補	日本学術振興会
中心性漿液性脈絡網膜症の病期別視機能異常の検証と評価法の構築	五味 文	眼科	1,690,000	補	日本学術振興会
口腔癌のpartial-EMTを介した浸潤・転移に関わるバイオマーカーの探索	野口 一馬	歯科口腔外科	1,690,000	補	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌の浸潤・転移におけるL1CAM発現の解析およびその影響	吉川 恭平	歯科口腔外科	1,300,000	補	日本学術振興会
CBR matrixを用いた慢性循環器疾患患者の社会的処方支援アプリの開発	高橋 敬子	循環器内科	1,040,000	補	日本学術振興会
睡眠の「質」の低下による代謝、認知領域への影響に関する基礎的検討	角谷 学	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,430,000	補	日本学術振興会
2型糖尿病患者における糖代謝、睡眠障害、心血管疾患の相互関連	楠 宜樹	糖尿病・内分泌・代謝内科	520,000	補	日本学術振興会
COVID-19におけるawake proningの有効性と胸部画像重症度の関連	竹田 倫世	リハビリテーション科	1,950,000	補	日本学術振興会
赤ワインによるTRPチャネルを介した血小板機能抑制の新しい分子メカニズム	丸茂 幹雄	血液内科	1,170,000	補	日本学術振興会
トリプルネガティブ乳癌におけるTP53と脂質分子の相補的な細胞制御機構の解明	永橋 昌幸	乳腺・内分泌外科	2,210,000	補	日本学術振興会
フレイル状態変化に基づくヒト老化制御因子としてのエクソソームmicroRNA探索	新村 健	総合内科	2,600,000	補	日本学術振興会
チェック関連強迫症の治療反応性予測における近赤外線スペクトロスコピーの有用性検証	向井 馨一郎	精神科神経科	650,000	補	日本学術振興会
インターロイキン18を中心とした脳内炎症と精神疾患の病態解明	山西 恭輔	精神科神経科	1,040,000	補	日本学術振興会
アンチセンスオリゴによりVEGFスプライシングを制御する小児腎疾患治療の検討	西岡 隆文	小児科	650,000	補	日本学術振興会
炎症性皮膚疾患における2型自然リンパ球の遊走能に関する研究	永井 諒	皮膚科	1,170,000	補	日本学術振興会
終末糖化産物受容体(RAGE)と血液脳関門機能、脳内炎症と認知機能障害	三好 晶雄	糖尿病・内分泌・代謝内科	650,000	補	日本学術振興会
耐糖能、肥満・内臓脂肪、自律神経機能と心室拡張機能に関する前向きコホート研究	森本 晶子	糖尿病・内分泌・代謝内科	390,000	補	日本学術振興会
OSNA法による大腸癌リンパ節転移進展形式の同定	片岡 幸三	下部消化管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
小児糖尿病の尿中落下細胞VEGFスプライシングアインフォームの解析と腎症予防	にえ川 智美	小児科	1,040,000	補	日本学術振興会
コハク酸-HIF1 α 経路を介した心不全抑制メカニズムの検討	西村 晃一	臨床検査科	1,430,000	補	日本学術振興会
ドライバー遺伝子変異陽性肺癌に抗腫瘍免疫を惹起する新たな癌免疫療法の開発	堀尾 大介	呼吸器内科	2,600,000	補	日本学術振興会
皮膚上皮細胞の最終分化(細胞死)における細胞質Ca ²⁺ 上昇メカニズムと役割の解明	村田 光麻	皮膚科	2,340,000	補	日本学術振興会
肝細胞癌に対する薬物治療の効果とvessel co-optionの関連	奥野 将之	肝・胆・膵外科	1,300,000	補	日本学術振興会
脊髄刺激療法による脊髄後角での鎮痛に関する分子発現変化の解明	奥谷 博愛	麻酔科・疼痛制御科	1,560,000	補	日本学術振興会
ケロイドの慢性炎症と老化細胞の関係について	石瀬 久子	形成外科	1,430,000	補	日本学術振興会
炎症惹起顎骨壊死モデルを用いた抗G-CSF中和抗体によるARONJ新規治療の探索	上田 美帆	歯科口腔外科	1,170,000	補	日本学術振興会
糖尿病患者における糖代謝、睡眠障害と心室拡張機能障害の関連	大東 真菜	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,300,000	補	日本学術振興会
モデルの誤指定に対して頑健な適応的デザインの開発	井桁 正堯	臨床研究支援センター	910,000	補	日本学術振興会
超音波剪断波を用いた腫瘍硬度による、肝癌viability評価方法の確立	河端 悠介	肝・胆・膵外科	1,170,000	補	日本学術振興会
CD276 発現 M2マクロファージを標的とした転移性脳腫瘍の発症制御	阪本 大輔	脳神経外科	2,080,000	補	日本学術振興会

血液メタボローム解析を用いた、IPMNの膵癌予測バイオマーカーの確立	中野 遼太	肝・胆・膵内科	1,040,000	補	日本学術振興会
オミクス解析による慢性心不全患者の骨髄造血障害のメカニズムの検討	真鍋 恵理	循環器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症におけるcfDNAの好酸球からの放出と炎症への関与	橋本 哲平	アレルギー・リウマチ内科	780,000	補	日本学術振興会
食物アレルギーにおけるIL-33スプライシング・アイソフォームの検討	藤野 哲朗	小児科	1,950,000	補	日本学術振興会
頸椎後縦靭帯骨化症の病態機序を考慮した創薬ターゲット探索研究	立林 洸太郎	脳神経外科	2,340,000	補	日本学術振興会
胎児付属器間葉系幹細胞を用いたくも膜下出血後神経損傷並び脳血管攣縮の治療法開発	白川 学	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
変形性膝関節症に対する間葉系幹細胞治療の除痛メカニズムの解明	井石 智也	整形外科	1,430,000	補	日本学術振興会
脱細胞化ヒト卵巣組織による人工卵巣の開発	脇本 裕	産科婦人科	1,040,000	補	日本学術振興会
上肢リハビリテーション支援ロボットのアシスト量の定量化と課題難易度の関連性の解明	内山 侑紀	リハビリテーション科	3,380,000	補	日本学術振興会
臨床検査の特性指標に対する新たな評価手法の開発	高橋 佳苗	臨床研究支援センター	1,300,000	補	日本学術振興会
骨リモデリング微小環境老化細胞におけるcGAS-STING経路の活性化	服部 洋一	歯科口腔外科	1,430,000	補	日本学術振興会
クレアチニンの尿細管分泌阻害剤投与時の腎機能評価としてのシスタチンCの有用性	秀田 恭子	薬剤部	480,000	補	日本学術振興会
造血幹細胞移植に伴うステロイド投与が立ち上がりと階段昇降動作に及ぼす影響	西角 暢修	リハビリテーション技術部	400,000	補	日本学術振興会
慢性心不全における赤血球半減期短縮の機序に関する研究	辻野 健	循環器内科	910,000	補	日本学術振興会
HIV感染血友病患者の救急対応の課題解決のための研究	日笠 聡	血液内科	9,309,000	補	厚生労働省
自己免疫制御を機序とする新規シェーグレン症候群治療薬の探索(DNW-18014)	西浦 弘志	病理診断科 (病理診断部門)	15,000,000	委	日本医療研究開発機構
臨床+AI2:E100研究者による活用を目指した臨床研究技能と研究公正の統合学修の実用化	森本 剛	臨床研究支援センター	3,900,000	委	日本医療研究開発機構

計 18

合計 96

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takimoto Yumi., Tsubamoto Hiroshi, Taniguchi Roze, 他	産科婦人科	Itraconazole Repolarizes Tumor-associated Macrophages and Suppresses Cervical Cancer Cell Growth	ANTICANCER RESEARCH. 2023Feb; : 569	Original Article
2	Ryuichi Kuwahara, Hiroki Ikeuchi, Yuki Horio, 他	炎症性腸疾患外科	Have advances in medical therapy for ulcerative colitis impacted surgical treatment?	Annals of Gastroenterological Surgery. 2023Mar; : 272	Original Article
3	Takimoto Yumi., Tsubamoto Hiroshi, Isono-Taniguchi Roze, 他	産科婦人科	Itraconazole Modulates Phospholipid Levels in Tumor-associated Macrophages	Anticancer Research. 2023Mar; : 1981	Original Article
4	Fushimi Katsuya, Gyo Kiyofumi, Okunaka Mieko, Watanabe Maiko, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Analysis of risk factors for post-tonsillectomy hemorrhage in adults.	Auris, nasus, larynx. 2023Mar; : 389	Original Article
5	Nin Tomomi, Tanaka Makoto, Nishida Kohei, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A clinical survey on patients with taste disorders in Japan: A comparative study.	Auris, nasus, larynx. 2022Oct; : 797	Original Article
6	Iwasaki Takahide, Mizusaki Kosuke, Masumoto Miwa, 他	腎・透析内科	TAFRO syndrome with renal biopsy successfully treated with steroids and cyclosporine: a case report	BMC nephrology. 2022Jul; : 262	Case report
7	Ryuichi Kuwahara, Hiroki Ikeuchi, Toshihiro Bando, 他	炎症性腸疾患外科	Clinical results following colonic resection for ulcerative colitis in elderly individuals (elderly-onset vs. nonelderly onset)	BMC surgery. 2022Jun; : 215page1	Original Article
8	Naomi Nakayama	総合内科	Mechanisms and Novel Therapeutic Approaches for Gynecologic Cancer	Biomedicines. 2022Apr; : 5	Others
9	Hashimoto Masaki, Yuki Michiko, Kitajima Kazuhiro, 他	呼吸器外科	Incidence and Risk Factors of Chest Wall Metastasis at Biopsy Sites in Patients with Malignant Pleural Mesothelioma.	Cancers. 2022Sep; : 4356	Original Article
10	Omote Maya, Tsubamoto Hiroshi, Ide Yoshihiro., 他	産科婦人科	Extraskeletal Myxoid Chondrosarcoma of the Vulva: A Case Report	Case Reports. 2023Jan; : 33601	Case report
11	Naito Yoshiro, Sawada Hisashi, Yasumura Seiki, 他	循環器内科	Iron Deficiency Induces Heart Failure With Ectopic Cardiac Calcification in Mice With Metabolic Syndrome.	Circulation. Heart failure. 2022Jul; : e009034	Original Article
12	Furuta Yuzo, Sugahara Masataka, Nakamura Takahito, 他	超音波センター	Platypnea-Orthodeoxia: An Effective Diagnostic Tool for Hepatopulmonary Syndrome With Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	Cureus. 2023Mar; : e35904	Case report
13	Maeda Y, Takata M, Gomi F, 他	眼科	Choroidal Thickness is Increased following Restraint Stress in Rats	Curr Eye Res. 2023Feb; : 1	Original Article
14	Shimomura H	小児科	Emotional Problems in Pediatric Headache Patients.	Current pain and headache reports. 2022Jun; : 469	Review
15	Yuki Horio, Motoi Uchino, Kurando Kusunoki, 他	炎症性腸疾患外科	Being Elderly Is Associated with Infectious and Fatal Postoperative Complications in Ulcerative Colitis Patients	Digestion. 2022Nov; : 470	Original Article
16	Nakano M, Konishi H, Koshiba M, 他	臨床検査科	TSAb/TRAb ratio as a sensitive screening test for active Graves' orbitopathy.	Endocrine practice : official journal of the American College of Endocrinology and the American Association of	Original Article
17	Masayuki Shima, Narumi Tokuda, Hideki Hasunuma, 他	麻酔科・疼痛制御科	Association of epidural analgesia during labor with neurodevelopment of children during the first three years: the Japan Environment and Children's Study	Environ Health Prev Med. 2022Nov; : 10.1265	Original Article
18	Shima Masayuki, Tokuda Narumi, Hasunuma Hideki, 他	医療安全管理部	Association of epidural analgesia during labor with neurodevelopment of children during the first three years: the Japan Environment and Children's Study	Environmental Health and Preventive Medicine. 2022Sep; : 1	Original Article
19	Ishihara Masaharu, Asakura Masanori, Hibi Kiyoshi, 他	循環器内科	Evolocumab for prevention of microvascular dysfunction in patients undergoing percutaneous coronary intervention: the randomised, open-label EVOCATION trial.	EuroIntervention : Journal of EuroPCR in collaboration with the Working Group on Interventional Cardiology of the European Society of Cardiology. 2022Oct; : e647	Original Article
20	<U>Yoshihara Daisaku</U>, <U>Fujiwara Noriko</U>, <U>Eguchi Hironobu</U>, 他	薬剤部	Iron deficiency aggravates DMNQ-induced cytotoxicity via redox cycling in kidney-derived cells.	Free radical research. 2022Jul; : 544	Original Article
21	Noguchi Y, Bo R, Nishio H, 他	小児科	PCR-Based Screening of Spinal Muscular Atrophy for Newborn Infants in Hyogo Prefecture, Japan.	Genes. 2022Nov; : 2110	Original Article

22	Isono-Taniguchi Roze, Goto Mayako., Takimoto Yumi, 他	産科婦人科	Metronomic chemotherapy using oral cyclophosphamide and bevacizumab for recurrent cervical cancer: A multi-institutional retrospective study	Gynecologic Oncology Reports. 2022May; : 1	Original Article
23	Nakano Ryota, Shiomi Hideyuki, Fujiwara Aoi, 他	超音波センター	Clinical Characteristics of ICI-Related Pancreatitis and Cholangitis Including Radiographic and Endoscopic Findings.	Healthcare (Basel, Switzerland). 2022Apr; : 763	Review
24	Azuma Kohei, Nishimura Koichi, Min Kyung-Duk, 他	循環器内科	Plasma renin activity variation following admission predicts patient outcome in acute decompensated heart failure with reduced and mildly reduced ejection fraction.	Heliyon. 2023Feb; : e13181	Original Article
25	Fumihiro Sakakibara, Shinichiro Ueda, Kazutaka Uchida, 他	脳神経外科	Association between dihydropyridine calcium channel blockers and ischemic strokes in patients with nonvalvular atrial fibrillation	Hypertens Res. 2022Jun; : 1028	Original Article
26	Fukui Atsushi, Yamaya Ayano, Saeki Shinichiro., 他	産科婦人科	Natural killer cell pathology and repeated implantation failures	Immunology of recurrent pregnancy loss and implantation failure. 2022Jul; : 259	Original Article
27	Shibahara Hiroaki, Chen Yuekun, Yamaya Ayano., 他	産科婦人科	Antisperm antibodies and reproductive failure	Immunology of recurrent pregnancy loss and implantation failure. 2022Jul; : 137	Original Article
28	Jomoto Wataru, Takaki Haruyuki, Yamamoto Shingo, 他	放射線技術部	Differentiation of Angiomyolipoma With Minimal Fat from Clear Cell Renal Cell Carcinoma Using Non-contrast Multiparametric Magnetic Resonance Imaging.	In Vivo. 2022Nov; : 2790	Original Article
29	Takuma Okamoto, Yuka Matsuki, Hiroki Ogata, 他	麻酔科・疼痛制御科	Association between averaged intraoperative nociceptive response index and postoperative complications after lung resection surgery	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2022Nov; : 10.1093	Original Article
30	Nakano-Doi Akiko, Kubo Shuji, Sonoda Emiko, 他	先端医学研究所神経再生研究部門	Different contacted cell types contribute to acquiring different properties in brain microglial cells upon intercellular interaction	International Journal of Molecular Sciences. 2023Jan; : 1774	Original Article
31	Fukuyama H, Huang BB, BouGhanem G, 他	眼科	The Fovea-Protective Impact of Double-Layer Sign in Eyes With Foveal-Sparing Geographic Atrophy and Age-Related Macular Degeneration	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2022Oct; : 4	Original Article
32	Takuya Saito, Ryo Itabashi, Kazutaka Uchida, 他	脳神経外科	Identifying large vessel occlusion using the hyperdense artery sign in patients treated with mechanical thrombectomy	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2023Jan; : 1	Original Article
33	Kishima Hideyuki, Mine Takanao, Fukuhara Eiji, 他	循環器内科	Efficacy of Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitors on Outcomes After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation.	JACC. Clinical electrophysiology. 2022Nov; : 1393	Original Article
34	Kazutaka Uchida, Seigo Shindo, Shinichi Yoshimura, 他	脳神経外科	Association Between Alberta Stroke Program Early Computed Tomography Score and Efficacy and Safety Outcomes With Endovascular Therapy in Patients With Stroke From Large-Vessel Occlusion: A Secondary Analysis of the Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism-Japan Large Ischemic Core Trial (RESCUE-Japan LIMIT)	JAMA Neurol. 2022Dec; : 1260	Original Article
35	Hideyuki Kondo, Ayako Takagi, Izumi Fukumoto, 他	循環器内科	Primary Takotsubo syndrome with recurrent prolactinoma	Journal of Cardiology Cases. 2023Mar; : 0	Case report
36	Matsutani Masako, Imai Yasutomo, Nakatani-Kusakabe Minori, 他	皮膚科	Dupilumab in atopic dermatitis patients with chronic hepatitis B	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. 2022Apr; : 65	Original Article
37	Katada Chihiro., Ohashi Kazutomo., Okada Kimie., 他	遺伝子医療部	Factors related to indecisive attitudes toward non-invasive prenatal testing among women of reproductive age in Japan	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2023Mar; : 794	Original Article
38	Uchiyama Yuki, Domen Kazuhisa, Koyama Tetsuo., 他	リハビリテーション科	Brain regions associated with Brunnstrom and functional independence measure scores in patients after a stroke: a tract-based spatial statistics study	Journal of Physical Therapy Science. 2023Mar; : 211	Original Article
39	Saeki Shinichiro, Fukui Atsushi, Mai Chuxian., 他	産科婦人科	Co-expression of activating and inhibitory receptors on peritoneal fluid NK cells in women with endometriosis	Journal of Reproductive Immunology. 2023Feb; : 1	Original Article
40	Soh Nishimoto, Kenichiro Kawai, Toshihiro Fujiwara, 他	形成外科	Cutaneous fistula on the cheek associated with oculo-auriculo-vertebral spectrum	Journal of Surgical Case Reports. 2022May; : rjac187	Case report
41	Kimura Toshio, Akahori Hirokuni, Tanaka Takamasa, 他	循環器内科	Impact of lipoprotein (a) on long-term outcome after percutaneous coronary intervention in the era of new generation drug-eluting stents.	Journal of cardiology. 2022Aug; : 179	Original Article
42	Fukuhara Eiji, Mine Takana, Kishima Hideyuki, 他	循環器内科	Increase in heart rate-dependent left atrial pressure is associated with symptoms in patients with paroxysmal atrial fibrillation.	Journal of cardiovascular electrophysiology. 2022May; : 855	Original Article

43	Hirose M, Okutani H, Hashimoto K, 他	麻酔科・疼痛制御科	Intraoperative Assessment of Surgical Stress Response Using Nociception Monitor under General Anesthesia and Postoperative Complications: A Narrative Review.	Journal of clinical medicine. 2022Oct; : 6080	Letter
44	Kanzaki Akinori, Kadoya Manabu, Katayama Satoru, 他	糖尿病・内分泌・代謝内科	Cardiac Hypertrophy and Related Dysfunctions in Cushing Syndrome Patients-Literature Review.	Journal of clinical medicine. 2022Nov; : 7035	Review
45	Nakayama Naomi, Nakayama Kentaro, Ishibashi Tomoka, 他	総合内科	Effect of Muscle Loss but Not Fat Loss during Primary Debulking Surgery and Chemotherapy on Prognosis of Patients with Ovarian Cancer.	Journal of clinical medicine. 2022Jun; : 11	Original Article
46	Yamamoto Takuma, Sano Rie, Miura Aya, 他	法医学	I536T variant of RBM20 affects splicing of cardiac structural proteins that are causative for	Journal of molecular medicine (Berlin, Germany). 2022Dec; : 1741	Original Article
47	Uchiyama Yuki, Domen Kazuhisa, Katsutani Masashi, 他	リハビリテーション科	Relationship between the independence level of individual motor-related functional independence measure items and its total score in patients after hip fracture: an ordinal logistic modelling study.	Journal of physical therapy science. 2022May; : 404	Original Article
48	Yonekazu Kidawara, Manabu Kadoya, Akiko Morimoto, 他	糖尿病・内分泌・代謝内科	Sleep Apnea and Physical Movement During Sleep, But Not Sleep Duration, Are Independently Associated With Progression of Left Ventricular Diastolic Dysfunction: Prospective Hyogo Sleep Cardio - Autonomic Atherosclerosis Cohort Study.	Journal of the American Heart Association. 2022Sep; : 1	Original Article
49	Nishimura Riu, Miuchi Shinya, Ikehata Miki, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Change in chorda tympani nerve function after two-stage tympanoplasty for cholesteatoma.	Laryngoscope investigative otolaryngology. 2022Oct; : 2035	Original Article
50	Chiaki Akui, Takeshi Kimura, Munetaka Hirose, 他	麻酔科・疼痛制御科	Associations between insomnia and central sensitization in cancer survivors undergoing opioid therapy for chronic cancer pain: A STROBE-compliant prospective cohort study	Medicine. 2022Sep; : 10.1097	Original Article
51	Saeki A, Yamanaka H, Kobayashi K, 他	麻酔科・疼痛制御科	Analgesic effect of gastrin-releasing peptide in the dorsal horn.	Molecular pain. 2022Apr; : 17448069221108965	Original Article
52	Shinichi Yoshimura, Nobuyuki Sakai, Hiroshi Yamagami, 他	脳神経外科	Endovascular Therapy for Acute Stroke with a Large Ischemic Region	N Engl J Med. 2022Aug; : 1303	Original Article
53	Nakagomi Takayuki, Nishie Hideaki, Sawano Toshinori, 他	先端医学研究所神経再生研究部門	A potential new tool to enhance translational success rate in stroke research by backcrossing techniques in transgenic mice	Neural Regeneration Research. 2023Jan; : 107	Others
54	Sugisawa T, Ishikawa H, Uchida K, 他	眼科	Risk Factors for Legal Blindness in 77 Japanese Patients with Endogenous Endophthalmitis: A Multicenter Cohort Study from J-CREST	Ocul Immunol Inflamm. 2022Aug; : 999	Original Article
55	Yoshimura A, Ishikawa H, Uchida K, 他	眼科	Risk Factors for Legal Blindness in 237 Japanese Patients with Exogenous Endophthalmitis: A Multicenter Cohort Study from J-CREST	Ocul Immunol Inflamm. 2023Jan; : 1	Original Article
56	Takaaki Sugisawa, Hiroto Ishikawa, Kazutaka Uchida, 他	脳神経外科	Risk Factors for Legal Blindness in 77 Japanese Patients with Endogenous Endophthalmitis: A Multicenter Cohort Study from J-CREST	Ocul Immunol Inflamm. 2022Aug; : 1	Original Article
57	Sota Koichiro, Uchiyama Yuki, Kaida Katsuji, 他	リハビリテーション科	Balance Function after Balance Exercise Assist Robot Therapy in Patients Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: A Pilot Study	Progress in rehabilitation medicine. 2023Feb; : 20230003	Original Article
58	Takato Megumi, Nanto Tomoki, Kanamori Masaru, 他	リハビリテーション科	Constraint-induced Aphasia Therapy Improves the Use of Spoken Language and Word-finding Ability in Chronic Subcortical Aphasia: A Case Report.	Progress in rehabilitation medicine. 2022Nov; : 20220060	Case report
59	Ken Onoe, Hiroki Ogata, Takuma Okamoto, 他	麻酔科・疼痛制御科	Association between thoracic epidural block and major complications after pleurectomy/decortication for malignant pleural mesothelioma under general anesthesia	Regional anesthesia and pain medicine. 2022May; : 10.1136	Original Article
60	Shibahara Hiroaki, Chen Yuekun, Honda Haruka, 他	産科婦人科	Sex difference in anti-sperm antibodies	Reproductive Medicine and Biology. 2022Apr; : 1	Review
61	Fukuyama H, Komuku Y, Araki T, 他	眼科	Association of flow signals within polyps on optical coherence tomography angiography with treatment responses after combination therapy for polypoidal choroidal vasculopathy	Retina. 2022May; : 942	Original Article
62	Fukuyama H, Fawzi AA, 他	眼科	Unconventional Buckling Techniques: Controlling MTM	Retina Today. 2022Oct; : 33	Others
63	Yagi Chisako, Kusunoki Yoshiki, Tsunoda Taku, 他	糖尿病・内分泌・代謝内科	Xanthine oxidoreductase activity is correlated with hepatic steatosis	Scientific Reports. 2022Jul; : 12282	Original Article
64	Hiroe Konishi, Shun-En Kanou, Rika Yukimatsu, 他	臨床検査科	Adenosine inhibits TNF α -induced MMP-3 production in MH7A rheumatoid arthritis synoviocytes via A_{2A}/SUB> receptor signaling	Scientific Reports. 2022Apr; : 1	Original Article

65	Tahara Saki, Naito Yoshiro, Okuno Keisuke, 他	腎・透析内科	Clinical utility of reticulocyte hemoglobin equivalent in patients with heart failure.	Scientific reports. 2022Aug; : 13978	Original Article
66	Iwai Rumi, Shimazaki Takunori, Kawakubo Yoshifumi, 他	臨床工学部	Quantification and Visualization of Reliable Hemodynamics Evaluation Based on Non-Contact Arteriovenous Fistula Measurement	Sensors. 2022Apr; : 2745	Letter
67	Yoji Kuramoto, Toshinori Takagi, Yuki Takeda, 他	脳神経外科	Identification of novel multipotent stem cells in mouse spinal cord following traumatic injury	Stem Cells Dev. 2022Sep; : 555	Original Article
68	Kuramoto Yoji, Takagi Toshinori, Takeda Yuki, 他	脳神経外科	Identification of novel multipotent stem cells in mouse spinal cord following traumatic injury	Stem Cells and Development. 2022Jun; : 10.1089	Original Article
69	Minato Yusuke, Nakano-Doi Akiko, Maeda Seishi, 他	先端医学研究所神経再生研究部門	A bore morphogenic protein signaling inhibitor, LDN193189, converts ischemia-induced	Stem Cells and Development. 2022Sep; : 10.1089	Original Article
70	Yusuke Minato, Akiko Nakano-Doi, Seishi Maeda, 他	解剖学 細胞生物部門	Multipotent Stem Cells into Neural Stem/Progenitor Cell-Like Cells	Stem cells and development. 2022Dec; : 756	Original Article
71	Kei Kimura, Akihiro Kanematsu, Masato Tomono, 他	下部消化管外科	Urinary tract diversion with gastric conduit after total pelvic exenteration for Crohn's disease-related anorectal cancer: a case report	Surgical Case Reports. 2022Jun; : 107-1	Case report
72	Kimura Kei, Kanematsu Akihiro, Tomono Masato, 他	下部消化管外科	Urinary tract diversion with gastric conduit after total pelvic exenteration for Crohn's disease-related anorectal cancer: a case report.	Surgical case reports. 2022Jun; : 107	Case report
73	Kazutaka Uchida, Junichi Kouno, Shinichi Yoshimura, 他	脳神経外科	Development of Machine Learning Models to Predict Probabilities and Types of Stroke at Prehospital Stage: the Japan Urgent Stroke Triage Score Using Machine Learning (JUST-ML)	Transl Stroke Res. 2022Jun; : 370	Original Article
74	Kazutaka Uchida, Shinichiro Ueda, Fumihiko Sakakibara, 他	脳神経外科	Statins Reduce Bleeding Risk in Patients Taking Oral Anticoagulants for Nonvalvular Atrial Fibrillation: A Retrospective Registry Study	cardiovasc Drugs. 2023Jan; : 89	Original Article
75	Ayano Yoshimura, Hiroto Ishikawa, Kazutaka Uchida, 他	脳神経外科	Risk Factors for Legal Blindness in 237 Japanese Patients with Exogenous Endophthalmitis: A Multicenter Cohort Study from J-CREST	cul Immunol Inflamm. 2023Jan; : 1	Original Article
76	Imanaka Takahiro, Fujii Kenichi, Tanaka Takamasa, 他	循環器内科	Potential of optical frequency domain imaging for differentiation between early and advanced coronary atherosclerosis.	The international journal of cardiovascular imaging. 2022Dec; : 2791	Original Article
77	Seishi Maeda, Yusuke Minato, Sachi Kuwahara-Otani, 他	解剖学 細胞生物部門	Morphology of Schwann Cell Processes Supports Renal Sympathetic Nerve Terminals With Local	The journal of histochemistry and cytochemistry. 2022Jul; : 495	Original Article

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 審査及び審査の範囲、申請手続き、他の研究機関の研究にかかる倫理審査、倫理審査委員の教育、利益相反等について記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 COIマネジメント指針、マネジメント対象者及び対象事項、COIマネジメント委員会の設置及び運営、学外への情報公開等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年26回 (月1回及び随時)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 【研究者倫理講習会(※web受講)】 日時: 2022年7月19日(火)～ 講師: 兵庫医科大学 倫理審査委員会・臨床研究審査委員会 委員長 麻酔科学・疼痛制御科学 廣瀬 宗孝 主任教授 参加者: 861人(※2023年6月26日時点)	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期臨床研修を修了した卒後 3 年目以上の医師を対象に専門医を目指すための専門的な研修を行う。当該研修においては、専攻分野ごとに研修プログラムを策定し、研修目標・到達目標の設定や、年次ごとのカリキュラムの設定を通して、効果的な研修が実施できるよう配慮している。
なお、多数の症例を経験させるために、関連病院とも協働して研修を実施している。
また、専攻分野によっては、研修期間中に大学院へと進学し、研究を行うことを可能としているものもある。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	211.2 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
澤田 暁宏	血液内科	講師	27 年	
安部 武生	アレルギー・リウマチ内科	助教	12 年	
西村 貴士	肝・胆・膵内科 超音波センター	講師	22 年	
小西 康輔	糖尿病・内分泌・代謝内科	講師	30 年	
栗林 康造	呼吸器内科 がんセンター	教授	28 年	
武田 正中	脳神経内科	教授	39 年	
名波 正義	腎・透析内科	講師	26 年	
関 庚徳	循環器内科	講師	21 年	
奥川 卓也	内視鏡センター	講師	17 年	
横山 陽子	消化管内科	助教	18 年	
山崎 博充	総合内科	助教	16 年	
清野 仁美	精神科神経科	講師	27 年	
李 知子	小児科	准教授	19 年	
多田 正晴	肝・胆・膵外科	講師	27 年	
野瀬 聡子	小児外科	講師	24 年	
倉橋 康典	上部消化管外科	講師	26 年	
別府 直仁	下部消化管外科	講師	19 年	
桑原 隆一	炎症性腸疾患外科	講師	13 年	
永橋 昌幸	乳腺・内分泌外科	准教授	21 年	
山村 光弘	心臓血管外科	講師	36 年	
橋本 昌樹	呼吸器外科	講師	18 年	
井石 琢也	整形外科	助教	13 年	
西本 聡	形成外科	教授	33 年	
立林 洸太郎	脳神経外科	助教	15 年	
和田 吉弘	皮膚科	助教	9 年	

山本 新吾	泌尿器科	主任教授	36年	
福井 淳史	産科婦人科	准教授	28年	
福山 尚	眼科	助教	20年	
伏見 勝哉	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	助教	13年	
富士原 将之	放射線科	講師	25年	
狩谷 伸享	麻酔科・疼痛制御科 ペインクリニック部	教授	31年	
白井 邦博	救命救急センター	講師	31年	
竹田 健太	ICU	准教授	24年	
道免 和久	リハビリテーション部	主任教授	37年	
山崎 隆	病院病理部	助教	16年	
宮崎 彩子	臨床検査部	准教授	30年	
中嶋 一彦	感染制御部	准教授	27年	
野口 一馬	歯科口腔外科	教授	32年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【1】医療安全管理に関する研修

・研修の主な内容

- ① 医療講演会「兵庫医科大学病院における医療安全管理体制について」「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関すること」「高難度新規医療技術を用いた医療提供に関すること」
- ② 医療講演会「R R S チームについて」「副作用報告制度と被害者救済制度について」
- ③ 医療講演会「医療機器安全研修」（「ME 全般・人工呼吸器・除細動器・保育器」「血液浄化装置」「補助循環装置」）
- ④ 医療講演会「医療放射線に関する安全管理について」「医療ガスの安全な使用方法」
- ⑤ 医療講演会「報告書確認サポートチームについて」「術前中止薬 メトホルミンとSGLT-2」
- ⑥ 医療講演会「検査・処置時における鎮静薬・鎮痛薬の安全使用ガイドについて」「輸血の安全な管理と投与」「輸血副反応と観察」「輸血検査検体および血液製剤の取り扱いについて」
- ⑦ 医療講演会「静脈血栓塞栓症（VTE）予防ガイドラインの改訂について」「人生の最終段階における医療」について考えてみませんか」

・研修の期間・実施回数

- ① 2022/5/23～
- ② 2022/6/27～
- ③ 2022/7/25～
- ④ 2022/8/22～
- ⑤ 2022/9/26～
- ⑥ 2023/1/23～

⑦ 2023/2/27～

・研修の参加人数

① 2,484名

② 1,990名

③ 1,124名

④ 819名

⑤ 989名

⑥ 510名

⑦ 375名

【2】病院感染対策に関する研修

・研修の主な内容

① 第1回院内講演会 「①カテーテル関連血流感染（CRBSI）②血流感染に対する治療」

② 第2回院内講演会 「クリーンハンドキャンペーン」

③ 第3回院内講演会 「結核の診断と発生時の対応」

④ 第4回院内講演会 「耐性菌に対する治療について」

⑤ 第5回院内講演会 「薬剤耐性菌の感染対策」

⑥ 第6回院内講演会 「手術部位感染について」

・研修の期間・実施回数

病院感染対策に関する研修（第2回クリーンハンドキャンペーンは、実習による研修、その他の講演会については、全てe-LearningおよびDVD貸出で実施）

①R4.7.4～ ②R4.9.5～9 R4.11.14～18 R4.12.13、14 ③R4.11.7～ ④R5.2.10～

⑤R5.2.15～ ⑥R5.3.31～

・研修の参加人数

病院感染対策に関する研修

※参加人数は実習参加およびe-Learning、DVD貸出の全てを含む

①1,931名 ② 2,439名 ③1,225名 ④ 672名 ⑤907名 ⑥220名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

感染対策

・研修の主な内容

- ① 外部委託：（株）オーエンス清掃作業従事者/「清掃作業員に対する感染予防研修」
- ② 看護部：リンクナース/感染防止委員「ICTwebの活用方法、手指衛生」
- ③ 薬剤部：薬剤師「菌と抗菌スペクトラム」
- ④ 薬剤部：薬剤師「抗菌薬投与量（PK-PD）」
- ⑤ 看護部：リンクナース/感染防止委員「耐性菌/接触予防策」
- ⑥ 看護部：看護助手/「退室時清掃 病室のUV照射による消毒、ライトストライクの使い方」
- ⑦ 看護部：リンクナース/感染防止委員「手指衛生 中心静脈カテーテル関連血流感染、カテーテル関連尿路感染」
- ⑧ 看護部：看護師ラダー「耐性菌対策をマスターして部署で頼れる存在になろう」
- ⑨ 看護部：看護師ラダー「感染対策の基本～標準予防策・経路別予防策」
- ⑩ 薬剤部：薬剤師「TDM①（概要、VCM）」
- ⑪ 薬剤部：薬剤師「TDM②（TEIC、アミノグリコシド）」
- ⑫ 看護部：リンクナース/感染防止委員「インフルエンザ」
- ⑬ 薬剤部：薬剤師「MRSA感染症治療薬（DAP・LZD）」
- ⑭ 看護部：リンクナース/感染防止委員「デバイスサーベイランスデータ活用」
- ⑮ 薬剤部：薬剤師「COVID-19に対する治療」

⑯ 薬剤部：薬剤師「MRSA感染症治療薬」

・研修の期間・実施回数

- ① R4. 5. 16 ② R4. 6. 9 ③ R4. 6. 14 ④ R4. 7. 12 ⑤ R4. 7. 14 ⑥ R4. 9. 2
⑦ R4. 9. 8 ⑧ R4. 9. 20 ⑨ R4. 10. 5、6、20 (3回) ⑩ R4. 10. 19 ⑪ R4. 11. 8
⑫ R4. 11. 10 ⑬ R4. 12. 7 ⑭ R4. 12. 8 ⑮ R5. 2. 14 ⑯ R5. 3. 10

・研修の参加人数

- ① 52名 ② 33名 ③ 56名 ④ 50名 ⑤ 30名 ⑥ 99名 ⑦ 32名 ⑧ 11名
⑨ 109名 ⑩ 48名 ⑪ 51名 ⑫ 32名 ⑬48名 ⑭ 34名 ⑮ 45名 ⑯ 35名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 阪上 雅史
管理担当者氏名	管理課長 永井 大樹、 医事課長 福田 禎夫 医療マネジメント課長 川上 健太、 薬剤部長 木村 健

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	診療各科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医療マネジメント課、 診療各科
		看護記録	診療各科
		検査所見記録	医療マネジメント課
		エックス線写真	医療マネジメント課
		紹介状	医療マネジメント課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療マネジメント課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課
		高度の医療の提供の実績	管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究推進課
		高度の医療の研修の実績	医療人教育課
		閲覧実績	管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部
		電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。	

一 項 に 掲 げ る 事 項	規則第一条の十一第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。 一部指針等については院内向けホームページでも公開している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所		管理方法
病院の管 理及び運 営に関す る諸記録	規則第一 条の十一 第二項第 一号から 第三号ま でに掲げ る事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。 一部指針等については院内向けホームページでも公開している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 医療マネジメント課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 管理課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 管理課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療マネジメント課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療マネジメント課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 医療マネジメント課 管理課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	管理課
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 小寺 斉人
閲覧担当者氏名	管理課長 永井 大樹、医事課長 福田 禎夫 医療マネジメント課長 川上 健太
閲覧の求めに応じる場所	管理課会議室、医事課会議室
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧を請求できる者である病院に患者を紹介しようとする医師及び歯科医師並びに国及び地方公共団体は、当院病院事務部長に「兵庫医科大学病院諸記録閲覧申請書」に必要事項を記入のうえ、申請を行うことで閲覧の許可を得ることができる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I. はじめに</p> <p>II. 医療安全管理体制確保のための委員会規約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理規程 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理体制 職員に対する教育・研修に関する事項 医療事故発生時の対応・報告・分析等に関する事項 ・ 医療安全管理者の業務指針 <p>III. 当院における医療安全管理体制図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故発生時の対応 ・ 院内救急医療体制 ・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する事項 ・ 患者からの相談への対応に関する事項 <p>IV. 院内死亡患者における届出について</p> <p>V. 兵庫医科大学病院における異状死体の届出に関する基準</p> <p>VI. 医療事故を起こした職員・当該部署職員への心理的支援について</p> <p>VII. 患者相談に関するフローチャート</p> <p>VIII. 大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療の質・安全審議委員会（2022年4月まで） ② 医療安全審議委員会（2022年5月より） ③ 医療リスクマネジメント委員会（2022年4月まで） ④ 医療安全対策委員会（2022年5月より） <p>・ 開催状況：① 2回 ② 11回 ③ 1回 ④ 11回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療の質・安全審議委員会 ② 医療安全審議委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定機能病院承認要件に関すること ・ 医療事故の原因究明・再発防止に関すること ・ 医療事故の公的機関（報道機関を含む）への報告に関すること ・ 医療事故の事後措置に関すること ・ 医療訴訟に関すること ・ 各委員会における審議内容等の監査に関すること ・ 改正医療法に関すること ③ 医療リスクマネジメント委員会 ④ 医療安全対策委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療にかかる医療安全管理のための指針に関すること ・ 医療事故発生時の対応に関すること ・ 医療事故の分析、改善策の立案、実施及び職員への周知に関すること ・ セイフティマネージャーの活動に関すること ・ 医療安全管理に関する職員の教育・研修に関すること <p style="text-align: right;">など</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第1回 2022/5/23～ 「兵庫医科大学病院における医療安全管理体制について」 「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関すること」 「高難度新規医療技術を用いた医療提供に関すること」</p> <p>第2回 2022/6/27～ 「RRSチームについて」 「副作用報告制度と被害者救済制度について」</p> <p>第3回 2022/7/25～ 「医療機器安全研修」（「ME全般・人工呼吸器・除細動器・保育器」「血液浄化装置」「補助循環装置」）</p> <p>第4回 2022/8/22～ 「医療放射線に関する安全管理について」 「医療ガスの安全な使用方法」</p> <p>第5回 2022/9/26～ 「報告書確認サポートチームについて」 「術前中止薬 メトホルミンとSGLT-2」</p> <p>第6回 2023/1/23～ 「検査・処置時における鎮静薬・鎮痛薬の安全使用ガイドについて」 「輸血の安全な管理と投与」 「輸血副反応と観察」 「輸血検査検体および血液製剤の取り扱いについて」</p> <p>第7回 2023/2/27～ 「静脈血栓塞栓症（VTE）予防ガイドラインの改訂について」 「「人生の最終段階における医療」について考えてみませんか」</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>① 発生したインシデント・アクシデントに対して、部長、副部長、専従セイフティマネージャーが発生部門のセイフティマネージャーと共に、内容分析、改善策の検討並びに患者・家族への対応の指示を行う。医療安全対策委員会委員及び各部署のセイフティマネージャーから構成される「オンラインインシデント検討会」を毎週開催し、部門に改善策の助言提案を行う。</p> <p>② 報告のあった医療事故に対し、医療安全審議委員会等で原因を分析し、改善策の検討を行う。迅速な対応が必要な場合、臨時で医療安全審議委員会および医療事故等検討部会を開催し、原因分析・対応策の検討を行う。事案に応じて事故発生1か月後・3か月後（必要時6ヶ月後）に医療安全管理部（専従SM）と当該部署のセイフティマネージャーが、改善策の実施状況を検証し、医療安全審議委員会に報告している。</p>	

- ③ 発生したインシデント・アクシデント内容によりテーマを設定し、看護部事故防止委員会・各部署のセイフティマネージャーと連携して、院内監査ラウンドなどを実施している。
- ④ 毎年6月と2月の医療安全強化月間には、テーマを決め各部署の安全への取り組みを奨励支援している。同時に医療安全対策委員会の委員のラウンドを企画し、広く現場の現状を把握し他部署の見学・現場確認をするなどの機会となっている。
- ⑤ 医療安全NEWSを毎月発行し、当院のインシデント・アクシデント情報・再発防止策・事故後の検証結果、他施設の事故事例、医療安全情報（厚生労働省・各種学会・PMDA等）などを掲載し、職員に周知している。
- ⑥ 初期研修医に対し、インシデント発生要因の分析や再発防止策を検討する機会を設け、医療安全対策委員会等で報告することによって、医療安全意識のボトムアップ効果と将来的な医師によるインシデント報告の増加を目指し、医療安全教育の一環として行っている。
- ⑦ 医療安全管理部の下部組織である「エコーガイド下CVC挿入推進チーム」と共に安全な医療提供に向け、臨床現場での課題の把握と対策の実施、及び職員教育を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>①感染管理に関する基本的な考え方 ②感染管理体制 ③職員の教育・研修 ④感染症の発生時の報告 ⑤感染症の発生状況の報告 ⑥感染症の発生時の対応 ⑦病院感染対策のための指針の閲覧 ⑧病院感染対策のための指針の見直し・改正</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院感染対策に関する事項を調査・審議し、院内感染症発生時の原因の分析、改善策の立案、実践、周知等感染管理を推進している。なお、必要があるときには臨時で開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>病院感染制御に対する基本的な考え方及び具体的施策の周知、業務を遂行する上での知識・技能の向上及び病院感染制御に対する意識の高揚を目的として、教育・研修を実施している。</p> <p>●病院感染制御をテーマとする講演会を開催（全職員対象） …年6回</p> <p>1. R4. 7. 4～ 第1回院内講演会 テーマ 「①カテーテル関連血流感染（CRBSI）②血流感染に対する治療」</p> <p>2. R4. 9. 5～9 R4. 11. 14～18 R4. 12. 13、14 第2回院内講演会 テーマ「クリーンハンドキャンペーン」</p> <p>3. R4. 11. 7～ 第3回院内講演会 テーマ「結核の診断と発生時の対応」</p> <p>4. R5. 2. 10～ 第4回院内講演会 テーマ「耐性菌に対する治療について」</p> <p>5. R5. 2. 15～ 第5回院内講演会 テーマ「薬剤耐性菌の感染対策」</p> <p>6. R5. 3. 31～ 第6回院内講演会 テーマ「手術部位感染について」</p> <p>●新採用（異動）者を対象とした研修</p>	

R4. 4. 1～

テーマ「病院感染予防策の基本」（4月～採用職員）

R4. 4. 4

テーマ「院内感染対象の実践」（4月採用臨床研修医）

R4. 4. 2

テーマ「感染対策の基本～キ・ホ・ンの”キ”～」（4月採用看護職者）

R4. 4. 7、8

テーマ「感染対策の基本～手洗い、手指消毒、個人防護具の実践～」（4月採用看護職者）

R4. 4. 1～R5. 3. 31（毎月開催）

テーマ「新入職時院内感染対策研修（オリエンテーション）」（中途採用病院職員対象）

テーマ「手指衛生および個人防護具について」（救急研修医ローテイト開始時）

●職種別研修（以下の職種を対象に研修、教育、指導を実施）

・看護師

①R4. 6. 9

テーマ「ICTwebの活用方法、手指衛生」（感染リンクナース）

②R4. 7. 14

テーマ「耐性菌/接触予防策」（感染リンクナース）

③R4. 9. 2

テーマ「退室時清掃 病室のUV照射による消毒、ライトストライクの使い方」（看護助手）

④R4. 9. 8

テーマ「手指衛生 中心静脈カテーテル関連血流感染、カテーテル関連尿路感染」（感染リンクナース）

⑤R4. 9. 20

テーマ「耐性菌対策をマスターして部署で頼れる存在になろう」（看護師ラダー）

⑥R4. 10. 5、6、20（3回）

テーマ「感染対策の基本～標準予防策・経路別予防策」（看護師ラダー）

⑦R4. 11. 10

テーマ「インフルエンザ」（感染リンクナース）

⑧R4. 12. 8

テーマ「デバイスサーベイランスデータ活用」（感染リンクナース）

・薬剤師

①R4. 6. 14

テーマ「菌と抗菌スペクトラム」

②R4. 7. 12

テーマ「抗菌薬投与量（PK-PD）」

③R4. 10. 19

テーマ「TDM①（概要、VCM）」

④R4. 11. 8

テーマ「TDM②（TEIC、アミノグリコシド）」

⑤R4. 12. 7

テーマ「MRSA感染症治療薬（DAP・LZD）」

⑥R5. 2. 14

テーマ「COVID-19に対する治療」

⑦R5. 3. 10

テーマ「MRSA感染症治療薬」

・外部委託

①R4. 5. 16

テーマ「清掃作業員に対する感染予防研修」（（株）オーエンス清掃作業従事者）

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

病院で取り決めた感染症発生時は、マニュアルに従って、各診療科より報告される。緊急対応が必要な病原体は別途定め「感染症発生時の対応パターン分類」に基づいて対応し、必要により感染対策委員会で審議の上、対策を講じている。

耐性菌については「レベル別分類」を別途設けており、レベルに応じた対策を講じる。耐性菌検出時は即時に対応しており、保菌者に対しても感染管理ラウンドにより感染対策の実践状況を評価し適宜介入する。

アウトブレイクを疑う事例が発生した場合は、「アウトブレイク発生時の対応」に基づき対応する。アウトブレイクの可能性が高いと判断した場合、感染制御部による原因の究明ならびに感染拡大防止策を実施する。更にレベル4以上の多剤耐性菌については、1例目の検出からアウトブレイク対応として迅速に対応することとしている。

院内の感染症治療および抗菌薬の適正使用支援に関しては、抗菌薬適正使用支援ラウンドとして、感染症治療に関するコンサルテーションに対する対応、ICUでの重症患者治療、無菌検体から検出した病原体への治療介入、新規耐性菌に対する感染症の評価（必要時治療介入）およびタゾバクタム/ピペラシリンとカルバペネム系抗菌薬使用症例の翌日および使用後の72-96時間後の評価とフィードバックを行う。抗緑膿菌活性を有する抗菌薬の使用割合をDOT（1000患者日あたりの使用日数）

で評価し、カルバペネム系25%、タゾバクタム/ピペラシン35%、第4世代セファロスポリン系/セフトラジジム25%、ニューキノロン系15%を目標として使用割合をコントロールし、抗菌薬の適正使用を推進している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 新規採用職員対象入職時研修 令和4年4月1日～ テーマ 「医薬品の安全管理について」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 木村 健</p> <p>② 臨床研修医オリエンテーション 令和4年4月5日 テーマ 「医薬品の安全使用について」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 木村 健</p> <p>③ 医療講演会 令和4年6月27日～ テーマ「副作用報告制度と被害者救済制度について」 講師 兵庫医科大学病院 医療安全管理部 岡田 健男</p> <p>④ 医療講演会 令和4年9月26日～ テーマ「術前中止薬 メトホルミンとSGLT-2」 講師 兵庫医科大学病院 糖尿病・内分泌・代謝内科セイフティマネージャー 小西 康輔</p> <p>⑤ 医療講演会 令和5年1月23日～ テーマ「検査・処置時における鎮静薬・鎮痛薬の安全使用ガイドについて」 講師 兵庫医科大学病院医療安全管理部 大島 忠之</p> <p>⑥ その他 病棟薬剤師などから各診療科・病棟スタッフに対して医薬品安全管理に関するレクチャーを実施 (例：化学療法施行の注意事項・副作用について、新規薬剤の投与・溶解方法・運用方法等（ベクルリー、など）について、KCL注の適正使用について、簡易懸濁法について、新規病棟定数配置眠剤（デエビゴ2.5mg）について など 令和4年4月～令和5年3月までで391件)</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院で用いる医薬品の採用・購入などに関する事項 ・ 医薬品の管理に関する事項 ・ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 ・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 ・ 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 ・ 他施設との連携に関する事項 ・ 放射性医薬品の取り扱いに関する事項 ・ 院内製剤の調製及び使用に関する事項 ・ 未承認新規医薬品等の使用に関する事項 ・ 未承認等の医薬品の使用に関する事項 <p>医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の実施については、業務確認票を用いてセイフティマネージャーと薬剤師で相互にチェックを行い、医薬品安全管理責任者に報告し確認が行われている。</p>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

未承認等の医薬品(適応外使用又は禁忌使用)は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に届け出ることで病院として把握するシステムが構築されている。具体的な使用事例としては、ステロイド不応性の特発性間質性肺炎に対するネオール、エンドキサンの使用が日本呼吸器学会のガイドラインに基づき使用していることが報告されている。

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - ・ 保険診療等で適用が承認されていない治療や薬品等の使用を行い緊急避難的な治療を行う場合、医療倫理委員会に申請して審査を受けることができる。
 - ・ 医師の処方した薬剤の使用が未承認医薬品の使用若しくは適応外又は禁忌等の使用方法に該当することを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づき必要に応じて処方した医師等に対して、処方の必要性や妥当性等を確認し処方の変更等の提案を行っている。
 - ・ 緊急安全性情報、安全性速報などの迅速な対応を必要とする情報提供はその経過の記録を保管している。その他、必要に応じて医薬品適正使用のために周知すべき注意喚起情報は、月1回の医療安全ニュースに掲載し、その閲覧状況を確認している。
 - ・ 医薬品安全管理責任者に指名された担当者は、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報(禁忌等)、緊急安全性情報、安全性速報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に関わる情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年123回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 以下の機器を中心に取り扱い方法・安全対策について研修を行っている ・人工呼吸器 ・血液浄化装置・除細動器 ・補助循環装置 ・不整脈治療関連機器 ・保育器 ・輸液ポンプ ・医療ガス ・放射線機器等 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 以下の装置に対しては定期点検（外観点検，機能点検，作動点検）を実施している ・電気メス ・体外式ペースメーカー ・透析装置 ・血液浄化装置 ・保育器 ・人工心肺装置 ・補助循環装置 ・除細動器 ・AED ・人工呼吸器 ・麻酔器 ・輸液ポンプ ・シリンジポンプ ・ベッドサイドモニター ・セントラルモニター ・下肢深部静脈血栓予防装置 ・超音波診断装置 ・筋電計 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 医療安全管理責任者は、医療安全管理者（医療安全管理部部長、専従セイフティマネージャー）とともに、病院長から委譲された権限に基づいて安全管理に関する院内の体制を構築し、医療リスクマネジメント委員会の円滑な運営を図っている。 ・ 医療安全管理責任者は、医療安全対策委員会を開催、議事進行を行い、決議事項を病院長に報告している。 ・ 医療安全管理責任者は、医療安全管理部の構成員である医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者と連携し、職種・部門間の調整を図りながら、医薬品、医療機器および診療用放射線の安全使用が確保されるように業務を行っている。 ・ 医療安全管理責任者は医療安全管理に関する必要な情報を医療安全管理部長より報告を受ける。重篤な有害事象に対しては、医療安全審議委員会に出席し、審議する。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師（医薬品安全管理者）が、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。医薬品安全管理責任者は報告された情報を踏まえて、必要に応じて医薬品安全管理者に指示してDIニュースで当該情報を院内に通知している。特に重要な情報については医療安全ニュースの「医薬品安全使用のための注意喚起情報」に掲載し、その周知状況については全診療科の閲覧記録を確認している。また、これらの手順は医薬品の安全使用のための業務手順書に記載して院内に周知している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等の医薬品（適応外使用又は禁忌使用）は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に届け出ることで病院として把握するシステムが構築されている。未承認新規医薬品等評価委員会には必要に応じて当該診療科に対して指導を行う。また、医薬品が適応外又は禁忌等で使用されたことを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づいて必要に応じて処方した医師等に対して疑義照会を行う。 ・ 担当者の指名の有無（有） ・ 担当者の所属・職種：（所属：薬剤部、職種：薬剤師） 	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームドコンセントワーキングを設置し、規定に基づき説明文書・同意書等の審査承認を行い、診療情報管理室において管理統括している。また、全診療科を対象に、多職種の診療録管理委員がチームとなり、対象診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長立ち会いの下、「オーディット」を実施している。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 責任者には病院長の直轄下に、診療情報管理室長（医師）を設置（選任）しており、診療情報管理士による診療録管理の統轄を行っている。また毎年全診療科を対象に、診療録管理委員の医師、看護師、診療情報管理士がチームとなり、診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長立ち会いの下、「オーディット」を実施している。さらに、診療録管理委員会による診療録記載ルールの策定、医療者への指導を行っている。 	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（15）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ①安全管理体制の構築、委員会の運営、指針、マニュアルの改訂など ②医療事故を防止するための情報収集、分析、改善策の立案、フィードバック、評価 ③改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言 ④安全管理対策の実施状況の調査、分析 ⑤セイフティマネージャーの活動支援 ⑥医療安全に関する職員への教育・研修の実施 ⑦医療事故への対応：届出・公表を含む事故発生後の対応、事故の要因分析 ⑧全死亡事例の検証（院内死亡患者届出票・死亡患者リスト） 	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（8件）、及び許可件数（7件） 	

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 - ① 医療安全管理部の求めるところにより、当該高難度新規医療技術の提供に関する倫理的・科学的な妥当性、本院で当該高難度新規医療技術を提供することの適切性並びに当該高難度新規医療技術の適切な提供方法（科学的根拠が確立していない医療技術については、有効性及び安全性の検証の必要性や、本院の体制等を勘案した上で、臨床研究として実施する等、科学的根拠の構築に資する実施方法について検討することを含む。）について審査を行い、当該高難度新規医療技術の提供の適否及び提供後に報告を求める症例数等について評価する。
 - ② 前号において評価した結果を、兵庫医科大病院医療の質・安全審議委員会及び医療安全管理部長に対し適否結果意見書（答申書）により答申する。
 - ③ 1号で決定した報告を求める症例（数）に対し、術後1年間の経過を医療安全管理部が追跡観察し、当該委員会に報告する。
 - ④ 高難度新規医療技術として承認を受けた技術に対して、医療安全管理部が6か月ごとに安全に実施されているか否かのモニタリングを行い、当該委員会に報告している。
 - ⑤ その他、高難度新規医療技術の適切な提供方法に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：

診療科の長から提出された未承認新規医薬品等の申請内容を確認し、未承認新規医薬品等評価委員会に対して当該未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めている。評価委員会からの意見に基づき適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対し適否結果通知書により通知を行い、また適否等の決定については病院長に報告を行っている。診療科の長は当該未承認新規医薬品等を用いた医療を提供した後、未承認新規医薬品等評価委員会が定める症例数、及び患者が死亡した場合、その他必要とされる場合には、未承認新規医薬品等実施報告書を当部門に提出することになっている。また承認後1年毎に患者使用状況を提出することになっており、それに基づき診療録等の記載内容の確認を行い、当該未承認新規医薬品等を用いた医

療が適正な手続きに基づいて提供されているかどうか確認している。また遵守状況の確認後はその内容を病院長に報告している。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 545 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 116 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
影響レベル 3b 以上の事例・事象は『事実関係報告書』を提出することとして、予期せぬ合併症、重篤な合併症事例の報告を受け委員会で検討している。
死亡事例報告に関しては、平成 28 年 7 月から『院内死亡患者届出票』の様式・運用を決定し提出を促して運用している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：近畿大学病院、大阪国際がんセンター））
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：近畿大学病院、大阪国際がんセンター））
※covid-19 対策のため、Web（Zoom）にて実施
- ・ 技術的助言の実施状況
（近畿大学病院）（大阪国際がんセンター）
 - ・ インシデントやアクシデントの報告等の状況（報告、分析、改善策の立案及び実施等）
インシデントレポートについて、0 レベルインシデントの記入項目を少なくすることで入力の簡素化を図り、医師の報告数増加に寄与できるのではないかと助言を受けた。内容を検討し、情報センターと調整を行ったが、システム改修等が必要なため、引き続き方策を検討している。

(近畿大学病院)

・ 医療安全管理委員会の業務の状況

次世代医療安全リーダー育成について指摘を受けた。各種会議、講演会を通じて医療安全に興味を持っていただくように働きかけていくとともに、有望な人材を発掘し、部員に迎え、育成を図るべく取り組んでいる。

(近畿大学病院)

・ 高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況

高難度新規医療技術に関する申請の要・不要に関して、高難度新規医療技術窓口担当者から委員会の委員長・副委員長に相談する体制を整えている。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

患者及び患者家族からの相談は、医療支援センターを窓口としている。内容に応じて医療安全管理部、管理課医療安全係に連絡が入ることとなっている。また、診療科、病棟・外来を介しても医療安全管理部に連絡が入るので、その都度対応している。患者相談に応じる為、メディエーター研修等を受講している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- ① 医療講演会「兵庫医科大学病院における医療安全管理体制について」「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する事」「高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する事」
- ② 医療講演会「RRSチームについて」「副作用報告制度と被害者救済制度について」
- ③ 医療講演会「医療機器安全研修」(「ME全般・人工呼吸器・除細動器・保育器」「血液浄化装置」「補助循環装置」)
- ④ 医療講演会「医療放射線に関する安全管理について」「医療ガスの安全な使用方法」
- ⑤ 医療講演会「報告書確認サポートチームについて」「術前中止薬 メトホルミンとSGLT-2」
- ⑥ 医療講演会「検査・処置時における鎮静薬・鎮痛薬の安全使用ガイドについて」「輸血の安全管理と投与」「輸血副反応と観察」「輸血検査検体および血液製剤の取り扱いについて」
- ⑦ 医療講演会「静脈血栓塞栓症(VTE)予防ガイドラインの改訂について」「人生の最終段階における医療」について考えてみませんか」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1

日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

特定機能病院管理者研修

【受講者】	【日付】
管理者	2023. 1. 26
医療安全管理責任者	2023. 1. 30
医薬品安全管理者	2023. 2. 24
医療機器安全管理責任者	2023. 2. 3

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2022年8月19日付認定（機能種別版評価項目 3rdG Ver. 2.0）を受けたが、条件付き認定のため、再度、確認審査をのうえ、現在、認定留保中（再審査予定）。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページ上に公表中

・評価を踏まえ講じた措置

【1.4.2】VAEの対象となる機器を使用している全病棟を対象として、計画的・継続的なデバイスサーベイランスを実施

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 「人格、学識ともすぐれ、医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等、医療安全確保のために必要な資質・能力を備え、かつ兵庫医科大学病院の理念に沿い、病院の管理運営に必要な資質・能力を有する者」 (兵庫医科大学病院病院長選考規程 第3条第1項に規定) ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有) ・ 公表の方法 本学ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有) ・ 公表の方法 				
<p>管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由</p> <p>前年度においては、管理者の選考の実施無</p>				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有		
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営に関して情報交換、情報共有を行うとともに、病院運営の円滑化、効率化や病院経営の健全化に向け必要かつ重要な事項を審議する（合議体名：病院幹部会議 月2回開催）</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 病院部長会、医局長会議、学内調整連絡会等にて周知を行う。 また、当該合議体である病院幹部会議の規程第2条において、病院部長会への報告と職員の周知が定められている</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有）</p> <p>・公表の方法 院内ホームページに掲載</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
阪上 雅史	○	医師	病院長
池内 浩基		医師	副院長
石原 正治		医師	副院長
木島 貴志		医師	副院長、がんセンター長
篠原 尚		医師	副院長
廣瀬 宗孝		医師	副院長
高橋 仁美		看護師	副院長・看護部長
木村 健		薬剤師	薬剤部長
琴浦 規子		放射線技師	放射線技術部長
狩野 春艶		臨床検査技師	臨床検査技術部長
小寺 斉人		事務職員	病院事務部長
中嶋 一彦		医師	感染制御部長
田中 宏幸		医師	医療安全管理部長
津田 志門		事務職員	総務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法
院内ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
病院長の任務と権限、任期等
病院長規程
第3条（病院長の任務と権限）に基づき、管理運営上必要な意思決定、人事、予算執行に関する適切な権限を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
病院規程第4条において、病院長の職務を円滑にするため、副院長を置くことができるとあり現在、以下6名を配置している。

（所属・役職等）	（担当）
炎症性腸疾患外科診療部長	外科部門長、医療の質・医療安全管理、教育研究体制、機能評価
麻酔科診療部長	働き方改革、急性医療総合センター、情報システム、医療倫理
循環器内科診療部長	診療体制、篠山・梅田連携
呼吸器内科診療部長	内科部門長、がん診療、未承認新規医薬品等評価
上部消化管外科診療部長	地域連携、高難度新規医療技術評価
看護部部長	療養環境、患者サービス、病床管理

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

各職種の管理職（マネジメントを担う人員）に対する研修を実施

- ・ 人事考課・ハラスメント研修
- ・ 病院の運営方針研修会
- ・ 2023年度事業計画タウンホールミーティング

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>第1回（2022年8月）は、メール審議形式により開催、 第2回（2023年3月）は、対面形式により開催いたしました。</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院長から医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療の質・安全審議委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者の業務が適切に実施されているか等について説明（報告）を求めるとともに実地（外部委員を含めた立ち入り調査を含む）で監査を行う。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>兵庫医科大学病院のホームページにて掲載</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮崎 浩彰	関西医科大学 医療安全管理 センター副セ ンター長 （兼任）消化器 肝臓内科/理事 長特命教授（医 師）	○	医療に係る安全 管理に関する見 解を有する者	有・無	1
亀井 尚也	かけはし法律 事務所（弁護 士）		法律に関する見 解を有する者	有・無	1
辰馬 勝	学校法人 関西 学院評議員		医療を受ける者 の立場から意見	有・無	2

	関西学院同窓 会 副会長		を述べることが できる者		
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部監査室による監査の実施（学校法人兵庫医科大学内部監査規程）
理事長直轄の組織として内部監査室を設置している
監査対象は、法人、大学、病院であり法人全体となっている
年度監査計画に、「特定機能病院の管理者に係る業務の執行状況監査」を定例監査として組み入れ、実施している
監査結果は理事長へ報告するとともに、被監査部署に通知している
指摘事項に対する改善状況については、フォローアップ監査を実施し改善状況を確認している

- ・ 専門部署の設置の有無（有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（有無）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 年6回（定例）の理事会の開催 ・ 会議体の実施状況（年7回）※定例開催6回、臨時開催1回 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年7回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 1 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 <ul style="list-style-type: none">■ 医療安全に関する通報 → 病院事務部 → スタッフマニュアルに掲載■ 公益通報 → 内部監査室 → ホームページに掲載■ 病院運営情報全般 → 管理課 → 教職員宛に通知のうえホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページや院内掲示を通じて、患者さん及び外部へと診療実績（クリニカル・インディケーター、クオリティ・インディケーター）をはじめとした情報を発信している。また、「学校法人兵庫医科大学広報」と「ここらいふ」の2誌を定期的に発行しており、連携病院に対しては送付による案内も行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 安全管理体制の強化を図るとともに、医療の質向上を目指し、複数診療科の医師、看護師をはじめとしたメディカルスタッフ等多職種からなる医療チームを編成し、適切な患者ケアや総合的な患者管理等を行う医療チーム及び医療従事者の質向上を目的とする合計18の医療チームを組織している。 （患者ケア等を目的とするもの） 感染対策チーム（ICT）、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム（NST）、緩和ケアチーム、呼吸ケアチームおよびラピッドレスポンスチーム（RRST）、精神科リエゾンチーム、周術期管理チーム、認知症ケアチーム、排尿ケアチーム、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、子どもと家族の支援チーム、医療倫理コンサルテーションチーム、慢性疼痛集学的治療チーム （医療従事者の総合的な支援を目的とするもの） エコーガイド下CVC挿入推進チーム、救命処置（BLS・ALS）推進チーム、報告書確認サポートチーム、新型コロナウイルス感染症禍における職員のメンタルサポートチーム	